

はは歯クラブだより



NO.26

長崎市鳴見台小学校

学校歯科医 行成 哲弘

こんにちは！  医療法人
ゆきなり小児・矯正歯科です。

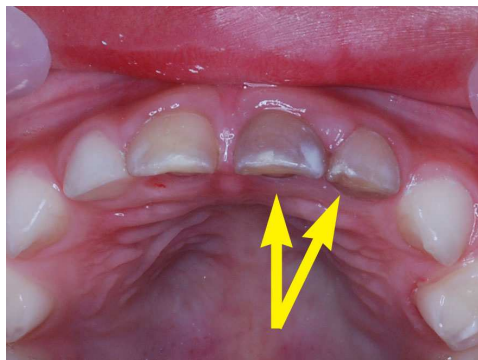
子供はよくころぶものです。特によちよち歩きの時期と小学1年生前後が多いと言われています。小学1年生前後になると行動が活発になり遊具や高いところからの転落、友だちどうしのふざけあいによる事故などが増えてきます。中学生前後になると、事故の頻度は減りますが、自転車などによる交通事故、スポーツによる事故などが起こってきます。今回は抜けてしまったときの応急処置について説明しました。今回は前歯が欠けてしまったときについてです。



写真の様に大きく欠けた場合には折れた部分を元の位置に戻し接着剤で接着し、治療します。全ての欠片（かけら）が見つければよいのですが見つからない場合とか欠片が砕けてしまい利用できない場合には足りない部分をプラスチックで補い治療します。矢印の部分はプラスチックで補い修復した部分です。ですから、歯が欠けたときには折れた歯の欠片がないかさがしてください。



もちろん、歯の神経が露出している場合には神経を抜くなどの処置が必要となります。しかし、将来的（おとなになった時）には折れた歯を全ておおうような処置が必要になるでしょう。



歯やあごをぶつけて打った場合、見た目はなんともなくとも歯の中の神経が死んでしまう場合があります。だいたい1週間前後で歯の色が赤茶色になったり、（矢印の2本の歯の色が変わっています。）2～3か月経過した後に、歯が黒ずんでくる場合があります。この場合は治療が必要になりますので歯科医院に行ってください。

＜日本小児歯科学会認定小児歯科専門医 行成哲弘＞
詳しくは、ホームページをご覧ください。「ゆきなり」で検索すると簡単です。
今までの「はは歯クラブだより」をホームページに掲載しています。